

キヌチ グラフィックパンチングで 高精細技術を確立

パンチングメタルメーカーのウチヌキ（本

社・神奈川県綾瀬市、社長・中尾健太郎氏）

1・0ミで、孔芯間隔（ピッチ）が1・5ミ

は、グラフィックパンチングで高精細のパンチング技術を確立した。孔径φ（パイ）は

最高水準の精細表現が可能となった。

一般的なタレットパンチング加工によるデザインパンチングとは異なり、小孔径・小ピッチを一本一本精細に制御するパンチング技術で、材料はスチールやアルミ、ステンレスのほか、樹脂なども対応が可能だ。

同社のUGP（ウチヌキ・グラフィック・パンチング）の技術を応用しており、UMP（ウチヌキメタルプリント）との組み合わせによって、原画は写真やイラスト、パターンや文字、マークなどからのパunch加工が可能だ。主にディスプレイ

新たに追加してラインナップを拡充した。編目パンチングは、パンチング加工とエンボスの凹凸加工を同時に行って、編みこんだ網目のような意匠性を演出するパンチングメタル

で、凹凸加工により通常のパンチングメタルよりも強度が向上する。材料はスチール、アルミ、ステンレスなどに対応しており、孔径仕様やピッチなども同社の金型製作により

対応が可能としている。同社は、11月28～30日にインテックス大阪で開催する「中小企業新ものづくり・新サー

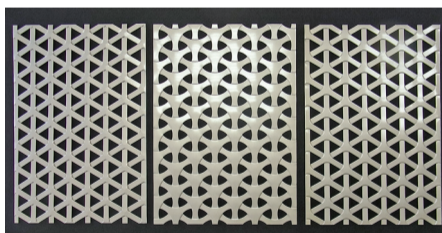
ビス展（主催・全国中小企業団体中央会）」に出展する予定で、新技術の高精細グラフィックパンチングと新商

品の三角孔編目パンチングも展示するとしている。同展は事前登録制で入場は無料。



国内最高水準の精細なグラフィックパンチング

レイや看板、装飾品や記念品など向けに受注増を目指す。このほか、建材・エクステリア向け製品の「編目パンチング」に、三角孔



三角孔の編目パンチングを3種類追加

